

# 湊江小学校 外国語活動・外国語研究通信

第5号

令和3年9月

第5回目の研究全体会は、英語教育スーパーバイザーのスコット由起先生、英語教育アドバイザーの石光萌乃先生、堀越早文先生をお招きして、研修を行いました。

## 研究主題

関わり合い、学びを広げ、深める児童の育成

～思いを豊かに表現できる授業づくりを通して～

### 1 Classroom English

授業で使える Classroom English 20個をジェスチャー付きで練習しました。(裏面参照)

その後、3つのグループごとにジェスチャーで、どの Classroom English かを当てるゲームをしました。

英語が聞き取れなくても、わからなくても、ジェスチャーがあるだけで伝わることを実感しました。



### 2 Small talk をして中間指導

3グループに分かれて活動しました。テーマに沿った Small talk をした後、先生役の人が中間指導を行いました。

テーマ① 夏休みの思い出

テーマ② 好きな食べ物

#### 中間指導

「言いたかったけれど、言えなかったことはありますか。」

※既習事項をもとにみんなで考える。

言い換えられたら、全体で共有する。全員で言う。質問した本人が言う。

言い換えられないときは、次回までに調べてきてよい。

日本語の段階で簡単な言い方にする。

名詞は、簡単なものは教え、難しいものは日本語のままでもよい。

例えば

・「空いている」→「空(から)」→  
「empty」

・「寝込む」→「具合が悪い」→  
「sick」

・「辛い」→「hot」? 「spicy」?

どちらでもよい。「hot」と言ったら、向こうが熱いなのか辛いのか聞いてくれるでしょう、とスコット先生が教えてくださいました。



グループごとの活動の後、どんな様子だったか交流しました。

- ・「言いたかったけど言えなかったことは？」という問いに、何も発言が出ない時はどうすればいいのか。
- 中学年の文部科学省の指導案にも載っている通り、「中間評価」も中間指導で行ってもよい。

中間指導は、高学年の「言いたかったけれど言えなかったことは？」の指導だけではなく、各学年でそれぞれのスタイルがある。

例えば、中学年・低学年では、伝え合う活動を行っているのを途中で止めて、

○よかったペアややり取りを全体に共有する **中間評価**

○まだ言えていないな、と思うのなら、「もう一度確認したい表現はありますか？」と聞いて、全体でもう一度表現を確認する

### 3 単元計画を立てる

(1) 6年生の単元の単元計画をグループごと話し合って考えました。

この単元は、区の指導案では絶滅危惧種について取り扱っていますが、テーマが難しく、他にもっといい活動内容があれば、と教材研修を兼ねて話し合いをしました。

(2) 考える前に、デジタル教科書でチャンツや Let's Listen などを経験し、イメージを膨らませました。

6年 Unit5 We all live on the Earth

※必然性のある最終活動を考える。

※無理なくねらいを達成する。

※児童が進んでコミュニケーションを図りたくなるような、興味関心のある題材や活動を扱う。



(3) どんな最終活動を考えたら、交流しました。

- ・動物クイズ クイズを攻略するための図鑑を作る。→読む、書く活動も含めることができる。
- ・絶滅危惧種の絵本の読み聞かせ
- ・Who am I?クイズ 動物、絶滅危惧種
- ・絶滅危惧種の一日を紹介

#### 【Classroom English】

Open your textbooks.	Go back to your seats.	Pass it forward.
Make pairs.	Give them a big hand!	Glue the paper.
Make 6 lines.	Listen carefully and draw lines.	Guess
Any volunteers?	Turn the cards over.	Close.
Raise your hands.	Spread the cards on your desks.	Good job.
Time is up.	Clear your desks.	That's right.
What did you hear?	Pass the paper to the back.	